

特集 2 企業の社会貢献活動 三菱電機ビルテクノサービス(株)と 「絵画展 口と足で表現する世界の芸術家たち」

同社はエレベーターやエスカレーターなどビル設備管理を本業とする会社ですが、「そのような企業がなぜ絵画展を？」という素朴な疑問を持ちながら、5月15日（金）絵画展を訪ね、担当者にお話を伺いました。

■そもそものきっかけは

作品との出会いは1991年。小平市花小金井にある同社研修センターに新築した宿泊施設に展示する絵画を捜していた時、「口と足で描く芸術家協会」の画家が描いた絵を購入したのが始まりでした。研修センターに集った社員達はその絵に感動し、近隣の方々にもぜひ鑑賞してほしいという思いから、1992年社員が手作りで絵画展を開催しました。

■社員のアイデアが会社の活動に

研修で全国から集まった社員がそれぞれの地元の人たちにも観てもらいたいと、1994年からは支社がある所在地でも開催。展示する絵画は、同社が所有する約800点の中から約50点を選んで全国巡回している（自社施設の小平では80点）、今年3月までの23年間で全国235ヶ所で開催し、延べ約65万人が鑑賞したそうです。絵画展の運営は、社員が有給休暇を取って家族も巻き込んでボランティアで行っているとのこと。とはいえ、絵画搬送や会場設営等の運営諸経費はそれなりにかかるもの

です。バブル崩壊やリーマン・ショックなど厳しい経済状況の中、真っ先に削られそうなこのような活動を継続してきた経営陣の決断には頭が下がります。



■絵の素晴らしさ

「地域の人にも観てもらいたい」という社員の思いは、飾られた数々の絵をひと目見て理解できました。絵の横には画家のプロフィールと創作風景の写真が掲示されています。生まれつきや若いころのスポーツ中の事故などの運命を背負った方々が、絵という表現方法に出会い、芸術家協会の奨学金制度を得て技術を磨き、生きる勇気を得てきたそれぞれの人生に思いを馳せた時、絵が一層の輝きを放って見えました。



■地域への社会貢献

取材した日は小平五小5年生の社会科見学があり、画家の森田真千子さん（大阪在住）が解説を交えて実演していました。

「試しに口で描いてみて！」と促された子どもたちは、

を加えて四苦八苦していました。「絵を描く上で大事なことは？」という子どもの問いに、森田さんは「あきらめないこと」と答えていたのが印象的でした。この出会いは子どもたちの心に大きなモノを残したことでしょう。



森田さんが実演で描いた色紙

絵画展は、この後6月から、鳥取、愛媛、岐阜など全国10ヶ所程度を1年かけて巡回します。また同社ウェブサイト内の「MELTEC GALLERY（メルテック ギャラリー）」でも観ることができます。

URL <http://www.meltec.co.jp/gallery/>（取材&文責：藤原、田原）